



概 要

概 要

沿 章



幕政の頃我が大和國は郡山、高取、柳本、櫛羅、芝村、小泉、柳生、田原本の八藩が分封管治し、和歌山、津、久居、大多喜、壬生の五藩の分邑、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本宮堂上、神社、寺院、社家等に分屬してゐた、明治元年五月、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家、管領等を奉還し同年五月奈良縣を置き之を合せ管轄し、同二年六月各藩版籍を奉還し、同三年二月奈良縣の一部を分つて五條縣を、同四年七月藩を廢して縣を置き、郡山縣、高取縣、柳本縣、櫛羅縣、芝村縣、小泉縣、柳生縣、田原本縣となつたが、同年十一月各縣を廢して更に奈良縣を設け、大和全國を統轄するやうになつた、明治九年四月奈良縣を廢し堺縣に併合し更に明治十四年二月堺縣は大阪府に編入せられたため、大阪府に屬したが明治二十年十一月十日大阪府を割いて、再び奈良縣を置き、大和全國を管轄して以來今日に至つてゐる、明治三十四年四月添上郡外十四郡を合併して十郡とし、同三十一年二月添上郡奈良町に市制施行、大正十二年郡制廢止、現在は一市十郡百五十ヶ町村を管轄してゐる。

○ 土 地

位 置 本縣は畿内の東南部に位し一市十郡二十九町百二十一村を管轄してゐる、東は三重縣に境し西は大阪府に隣り南は和歌山縣に境し北は京都府に接し、東經135度33分より起つて136度12分に至り北緯33度52分より34度47分に達してゐる。

地 勢 南北に長く東西に狭く山岳は四面を圍繞して北方纔に開通してゐるのみである、東は三國山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等の群峰を隔て、三重、和歌山縣に境し南は峻嶺相重つて和歌山縣の諸嶮山嶽と交叉し、西は金剛、葛城、信貴、生駒の連山起伏して大阪府と境を劃してゐる。

山嶽及河川 山嶽の大なるものに七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等があり、何れも南方に巍峨として屹立してゐる、河川は飛鳥、富雄、龍田、葛城其の他數多の小川が合流して大和川となり西流して大阪府に入り、宇陀川は源を宇陀郡に發し三重縣を経て名張川となり再び遙かに北部を匯りて京都府に赴き、吉野川はその源を大臺ヶ原に發し中央を貫流して紀ノ川となり南海に入り、又十津川、北山川は共に吉野郡の山間に發し和歌山縣を経て南海に注いでゐる。

面 積 本縣は東西64.13 軒強南北102.22 軒弱で、面積は3,688.6 方軒である、之を郡市別に觀て最も大なるは吉野郡の2,262.7 方軒で總面積の六割二厘を占め、宇陀、山邊、生駒、添上、磯城、北葛城、宇智、高市、南葛城の各郡順次之に亞ぎ奈良市の29.8 方軒は最小である。

地 質 本縣の地質は錯雜混入してゐるが、之を大觀すれば南半は大部分古生層にして中生層は其の南端の一部を占め北半は火成岩より成つてゐる、地質には花崗岩、安山岩があり、水成岩層中には片麻岩の地が多く之に亞いで第三紀層が多く、其の他の地層は此等の間に介在して小面積を占むるのみである。

民業及物産 民業は農業を主とし山地に於ては林業を兼ね、又市街地には専ら商工業に従事し養蠶、製

茶を業とするものも亦尠くない、物産の主なるものに米、實藥、綿絲紡績、酒類、杉用材、金巾、麥、繭、メリヤス生地、鈕、蓄音機レコード、蚊帳、ヒノキ用材、メリヤスシャツ及ズボン下、綿蚊帳地、メリヤス靴下、綾綿布、スイカ(西瓜)、蠶絲類、墨、醬油、^{ローフ}麻綱類(百萬圓以上)、木炭、鷄卵、屠肉(牛)、凍豆腐、木箸、筆、薪炭材、履物表、アルミニウム粉(金屬性)、下駄、製茶、瓦、柿、石綿製品、洋服、電線針金及釘類(以上50萬圓)等があり、生産總額は141,558,756圓で現住一人當の生産額は226圓41錢である。

○ 氣 象

氣 壓 昭和十二年の平均氣壓は756.8耗で前年に比べて4.8耗高くその最高は四月の758.7耗最低は七月の752.0耗である。

氣 温 昭和十二年中の平均氣温は攝氏14.7度で平年より0.4度高く、年内を通じ氣温の最高極は八月二十八日の36.0度、最低極は一月十四日の零下4度である。

降 水 量 昭和十二年に於ける降水量は1,300.0耗で平年の1,448.0耗に比較すれば148.0耗少く、一ヶ月の平均降水量は108.3耗で降水量の最も多い月は九月の169.0耗、最小は十二月の1.4耗である。

○ 戸 口

人口靜態

現住人口 警察戸口調査規程に依る昭和十二年末の戸口は戸數123,242戸人口625,238人内男308,023人女317,215人で女100人につき男97.1人に該り一戸當の平均人員は5.07人である。前年末に比し人口1,903人を増し一方軒當の人口は170人となつてゐる。

現在人口 昭和十年國勢調査の結果に依る現在人口は620,471人で内男306,011人女314,460人女100人につき男97.3人で昭和五年國勢調査に比べて總數24,246人内男10,555人女13,691人を増加し、一方軒當人口は168人である。

一 方 軒 當 人 口

	國 勢 調 査		戸口調査=依ル 現 住 人 口		國 勢 調 査		戸口調査=依ル 現 住 人 口
	現在人口	常住人口			現在人口	常住人口	
添上郡	208	209	211	北葛城郡	716	722	761
生駒郡	440	441	454	南葛城郡	448	468	489
山邊郡	284	231	220	宇智郡	283	284	285
磯城郡	504	506	520	吉野郡	44	43	44
宇陀郡	113	114	114	奈良市	1,878	1,871	1,921
高市郡	556	575	587				

人口動態

婚 姻 昭和十二年の婚姻は7,331件で前年に比し1,872件多く、人口千に對する婚姻率は11.63件で市部は8.55件、郡部は11.93件である。

- 離婚** 離婚は428件で前年に比し70件を増しその人口千に對する割合は0.68である。
- 出生** 出生總數は17,684人内男9,084人女8,600人で女100人につき男106人に該り前年に比し424人(2分5厘)を増し人口千に對する出生率は28.04である。
- 死産** 死産は總數1,128内男599女520男女不詳9で前年に比し19人(1分7厘)を増し人口千に對する死産率は1.79にして前年に比し0.02上つてゐる。
- 死亡** 死亡者は總數11,336人内男5,897人女5,439人で前年に比し444人減少し人口千に對する死亡率は17.98である、之を死因別に觀ると腦出血、腦栓塞及腦血栓の1,186人最も多く總數の1割5厘を占め肺炎、呼吸器の結核、先天性弱質、老衰、癌其の他の悪性腫瘍、腎臟炎等は何れも死亡者多く各500人以上を算してゐる。
- 自然増加** 昭和十二年に於ける本縣人口の自然増加は6,348人内男3,187人女3,161人で人口千に對する増加率は10.07に上り、前年に比べて868人(1割5分8厘)多く、男女の割合は女100人につき男100.8人である。

生産總額

昭和十二年に於ける生産總額は141,558,756圓で前年に比し15,535,989圓(1割1分)を増してゐる。

本縣生産總額の趨勢は世界大戰當時174,598,746圓を算した大正八年を最高として年に依り高低はあつたが、漸減の傾向を辿り昭和六年にはその半にも及ばない80,819,106圓となつた。昭和七年より次第に増加して最近は年と共にその額を加へ再び大正八年時代に近付かんとしてゐる。

之を種類別に觀ると工業は依然として最も多く83,348,595圓で王座を占め、以下農産38,830,149圓 林産10,331,480圓 蠶絲業産5,041,074圓 畜産2,454,123圓 水産776,450圓 鑛産76,885圓の順となつてゐる。

郡市別生産總額の最高は北葛城郡の25,526,048圓で最低は宇陀郡の4,992,844圓である、奈良市を除く一町村當の生産額は853,872圓であるが平均額を超えるものは僅々37ヶ町村に過ぎない、生産總額を現住戸口に對比すれば一戸當1,149圓一人當226圓となり前年に比し前者123圓後者24圓を増してゐる。

最近十ヶ年間及郡市別の生産總額の割合は次の通である。

	年	總數	農産	蠶絲業	工産	林産	鑛産	水産	畜産	同指	上數	現一人	住當
昭和	3	100.0	26.6	9.9	55.3	5.7	0.4	0.2	1.9	100			203.38
"	4	100.0	26.6	9.6	56.3	5.0	0.3	0.3	1.9	101			204.46
"	5	100.0	26.5	7.2	59.1	4.3	0.3	0.5	2.1	74			149.74
"	6	100.0	24.6	6.7	60.8	4.7	0.2	0.6	2.4	65			131.70
"	7	100.0	28.3	6.4	57.8	4.6	0.3	0.6	2.0	70			104.77
"	8	100.0	26.2	7.0	59.2	4.8	0.3	0.6	1.9	83			165.76
"	9	100.0	27.4	3.5	60.6	5.6	0.4	0.6	1.9	89			179.41
"	10	100.0	27.4	4.8	57.7	7.4	0.5	0.5	1.7	96			194.93
"	11	100.0	27.5	4.2	59.0	6.6	0.4	0.5	1.8	101			202.18
"	12	100.0	27.4	3.6	58.9	7.3	0.6	0.5	1.7	114			226.41

			總 數	農 産	蠶 業	絲 産	工 産	林 産	鑛 産	水 産	畜 産	同 指	上 數	現 住
														一 人 當
			(縣總額ニ對スル歩合總額100トシテ)											
			%											
			円											
添 上 郡	100.0	70.4	2.6	18.3	4.8	0.4	0.6	2.9	4	155.11				
生 駒 郡	100.0	28.6	0.4	65.3	0.5	0.8	2.3	2.1	14	235.77				
山 邊 郡	100.0	56.4	6.6	29.7	4.7	0.3	0.4	1.9	5	167.22				
磯 城 郡	100.0	36.8	8.1	51.6	1.3	0.2	0.1	1.9	13	228.28				
宇 陀 郡	100.0	48.8	11.4	16.0	19.7	1.0	0.2	2.9	3	130.68				
高 市 郡	100.0	19.4	1.2	78.0	0.7	0.1	0.1	0.5	12	349.16				
北 葛 城 郡	100.0	20.4	0.6	75.9	0.2	0.8	0.3	1.8	18	326.74				
南 葛 城 郡	100.0	28.8	1.8	65.4	1.7	0	0.2	2.1	6	242.56				
宇 智 郡	100.0	31.2	8.0	54.1	2.5	0.7	0.5	3.0	4	194.87				
吉 野 郡	100.0	17.4	8.4	23.1	47.9	1.5	0.4	1.3	12	167.19				
奈 良 市	100.0	4.0	—	94.8	0	0	0.1	1.1	9	235.52				

() 主 要 物 産

昭和十二年の主要物産は米の25,412,142圓を首位とし賣藥、綿絲紡績、酒類、杉用材、金巾、麥藭、メリヤス生地、鈕、蓄音機レコード、蚊帳等順次之に亞ぎ何れも200萬圓以上の産額を有してゐる。

今50萬圓以上の物産を擧ぐれば次の通である。

米	25,412,142	醬	油	1,079,785	
賣	13,336,268	麻	網 類 (ローブ)	1,056,973	
綿	12,300,487	木	炭	990,446	
酒	6,465,530	鷄	卵	969,546	
ス	5,392,819	屠	肉 (牛)	927,291	
金	4,926,063	凍	豆	804,148	
麥	4,602,783	木	箸	787,790	
藭	3,522,871	筆		786,430	
メ	3,039,596	薪	炭	749,012	
鈕	3,004,249	履	物	744,031	
蓄	2,509,633	製	綿 (眞綿ヲ除ク)	701,535	
音	2,374,284	アル	ミニユーム粉(金屬性)	650,000	
機	1,990,926	下		618,757	
レ	1,791,633	製	茶	602,973	
コ	1,696,166	瓦		587,671	
ド		柿		574,790	
蚊		石	綿	製	品
帳		洋			服
ヒ		電	線	針	金
ノ					及
キ					釘
用					類
材					
メ	1,591,633				
リ	1,336,444				
ヤ	1,301,140				
ス	1,277,147				
シ	1,132,090				
ヤ					
ッ					
及					
ズ					
ボン					
下					
地					
綿					
蚊					
帳					
メ					
リ					
ヤ					
ス					
靴					
下					
布					
メ					
綾					
ス					
イ					
カ					
(西					
瓜)					
蠶					
絲					
類					
蠶					
蠶					

農 業

耕地面積 昭和十二年末に於ける耕地面積は44,654町5段内田33,066町7段(7割4分1厘)畑11,587町8段(2割6分)で耕地は總面積の1割2分に該つてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	田	畑	指 數		
					總 數	田	畑
昭和	8	44,944.3	33,351.5	11,592.8	100	100	100
〃	9	44,836.8	33,269.1	11,567.7	100	100	100
〃	10	44,768.3	33,193.9	11,574.4	100	100	100
〃	11	44,765.3	33,122.2	11,643.1	100	99	100
〃	12	44,654.5	33,066.7	11,587.8	99	99	100

同年中の耕地面積の移動は擴張39町内田8町3段(2割1分3厘)畑30町7段(7割8分7厘)その潰廢は148町6段内田61町8段(4割1分6厘)畑86町8段(5割8分4厘)でその他の地目變換等による移動を加へ、前年末に比し110町8段を減少してゐる。

農 家 戸 數 昭和十二年末に於ける農家戸數は62,484戸にして總戸數の5割7厘に當り前年に比して6戸を減少してゐる。

農業を專業とせるものは41,364戸(6割6分2厘)兼業とせるものは21,120戸(3割3分8厘)で、更に之を自作、小作別に觀ると自作22,203戸(3割5分5厘)小作16,642戸(2割6分7厘)自作兼小作23,639戸(3割7分8厘)となつてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	專 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作	指 數						
								總 數	專 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作	
昭和	8	64,954	41,338	23,616	22,666	18,488	23,800	100	100	100	100	100	100	100
〃	9	64,151	40,750	23,401	22,705	17,744	23,702	99	99	99	100	96	100	
〃	10	64,049	42,041	22,008	22,456	17,716	23,877	99	102	93	99	96	100	
〃	11	62,490	41,427	21,063	21,981	17,099	23,410	96	100	89	97	92	98	
〃	12	62,484	41,364	21,120	22,203	16,642	23,639	96	100	89	98	90	99	

耕地所有農家戸數 昭和十二年末に於ける耕地所有農家戸數は、56,009戸で前年に比し162戸(3厘)を減じてゐる、耕地五段歩未満の所有者は總數の5割6分4厘を占め、五段以上一町歩未満は2割6分9厘で一町歩以上は1割6分7厘に過ぎない。

最近五ヶ年間に於ける趨勢を觀ると次の通である。

	總數	五未段滿	五以段上	一以町上	三以町上	五以町上	十以町上	五以十町上	指 數							
									總數	五未段滿	五以段上	一以町上	三以町上	五以町上	十以町上	五以十町上
昭和 8	55,248	31,528	14,442	7,560	1,235	368	111	4	100	100	100	100	100	100	100	100
〃 9	55,135	30,970	14,785	7,751	1,186	342	96	5	100	98	102	103	96	93	86	125
〃 10	55,988	31,546	15,155	7,787	1,091	313	95	1	101	100	105	103	88	85	86	25
〃 11	56,171	31,742	14,968	7,981	1,058	326	94	2	102	101	104	106	86	89	85	50
〃 12	56,009	31,603	15,068	78.00	1,089	343	104	2	101	100	104	103	88	93	94	50

農産物價額 昭和十三年の農産物總價額は38,830,149圓で前年より4,229,983圓(1割2分2厘)多くなつてゐる。

農産物をその利用上より分類すると米の25,412,142圓が最も多く總額の6割5分4厘を占め、麥4,602,783圓(1割1分8厘)果菜類2,195,344圓(5分7厘)果樹類1,620,585圓(4分2厘)芋類1,460,298圓(3分8厘)工藝農産物1,057,028圓(2分7厘)根莖類796,699圓(2分0厘)莢實類436,857圓(1分1厘)米麥を除く穀菽類383,897圓(1分)葉菜類371,179圓(1分)花卉類261,723圓(7厘)綠肥用作物117,717圓(3厘)順次に亞ぎ農産種苗類の113,797圓(3厘)が最少である、耕地一段歩當の農産額は86圓96錢で前年より9圓67錢(1割2分5厘)を増し、郡市別に觀て最も多いのは添上郡の109圓17錢最少は吉野郡の29圓9錢である。

最近五ヶ年間に於ける比較及郡市別は次の通である。

		總 額	米	麥	其 他 穀 菽 類	果 樹 類	芋 類	莢 實 類
總 數								
昭和	年 8	27,070,479	17,955,898	2,530,134	298,814	1,447,111	1,196,743	294,847
〃	9	30,448,347	20,590,030	2,946,746	288,313	1,377,923	1,181,988	288,907
〃	10	32,900,927	22,074,545	3,252,911	326,697	1,574,669	1,343,177	325,320
〃	11	34,600,166	22,708,484	4,059,751	333,313	1,549,318	1,342,913	399,375
〃	12	38,830,149	25,412,142	4,602,783	383,897	1,620,585	1,460,398	436,867
郡 市 別								
添 上	郡	4,199,249	2,775,965	382,541	36,838	108,113	93,568	62,367
生 胸	郡	5,769,629	4,192,070	561,984	37,020	341,096	123,808	68,663
山 邊	郡	4,032,883	2,487,510	488,398	54,176	122,493	89,475	44,996
磯 城	郡	6,695,222	4,319,950	1,051,512	55,239	181,797	170,453	44,421
宇 陀	郡	2,436,279	1,889,762	150,314	39,542	32,354	103,169	32,753
高 市	郡	3,193,805	2,228,295	460,600	14,737	97,645	90,141	24,618
北 葛 城	郡	5,192,873	3,458,618	672,799	34,472	246,543	198,925	86,093
南 葛 城	郡	2,311,517	1,545,939	296,727	13,141	67,288	129,409	36,628
宇 智	郡	1,567,516	1,005,500	182,358	13,765	122,058	79,099	7,230
吉 野	郡	2,887,599	1,112,879	279,751	83,108	294,980	377,621	25,096
奈 良	市	543,577	395,650	75,799	1,859	6,218	4,730	3,992

	果菜類	葉菜類	根莖類	花卉類	工 藝 農 産 物	緑肥用 作 物	農産種 苗 類	耕 地 一段步當	現 住 一 人 當	
總 數										
昭和	年 8	1,371,400	310,134	595,418	73,287	794,965	100,269	101,459	60.23	43.69
〃	9	1,766,961	312,263	596,245	106,669	777,523	105,537	109,242	67.91	49.22
〃	10	1,893,502	267,048	655,059	186,256	803,648	112,953	85,142	73.49	53.45
〃	11	1,944,193	296,754	716,416	197,665	849,829	115,074	87,081	77.29	55.51
〃	12	2,195,344	371,179	796,699	261,723	1,057,028	117,717	113,797	86.96	62.10
郡 示 別										
添 上 郡		285,918	55,754	85,968	9,497	286,058	12,189	4,469	87.45	109.17
生 駒 郡		196,955	59,492	71,380	81,873	25,184	8,006	2,098	84.37	67.42
山 邊 郡		408,983	20,651	33,308	26,553	243,427	9,059	3,854	90.89	94.34
磯 城 郡		561,883	48,732	99,057	35,972	69,892	5,080	51,234	109.51	93.96
宇 陀 郡		41,889	23,370	54,290	4,233	27,378	32,753	4,472	59.94	73.76
高 市 郡		115,007	33,525	95,144	4,260	20,484	5,418	3,931	96.71	67.85
北 葛 城 郡		249,463	19,507	143,279	44,207	16,707	1,095	21,165	104.90	66.47
南 葛 城 郡		132,033	10,035	33,582	33,792	4,414	4,815	3,714	102.00	70.00
宇 智 郡		74,867	10,185	21,216	242	20,006	24,118	6,872	74.58	60.70
吉 野 郡		108,813	76,398	142,772	18,514	340,660	15,019	11,988	55.14	29.09
奈 良 市		19,533	13,530	16,703	2,580	2,818	165	—	100.59	9.50

蠶 絲 業

蠶絲價額 昭和十二年中に於ける本縣の蠶絲業に依る生産額は養蠶3,522,871圓、蠶絲類1277,147圓、蠶種238,946圓、眞綿2,110圓、合計5,041,074圓で前年に比し252,269圓(4分8厘)を減少してゐる、養蠶中春蠶は數量297,574貫その價額1,764,258圓、夏秋蠶は數量400,429貫價額1,758,613圓で前年に比し價額に於て前者は106,634圓(6分4厘)を増し、後者は350,466圓(8分3厘)を減少し總産額に於て243,832圓(4分4厘)を減少してゐる、養蠶戸数は14,440戸で亦1,152戸(7分8厘)を減じてゐる、養蠶家一戸當收繭額は244圓で前年に比し2圓を増加してゐる、蠶絲類中生絲は24,276貫、1,231,978圓、屑物5,607貫、45,169圓で前年に比し價額に於て前者は6,317圓(5厘)を増加してゐるが後者は2,167圓(3割7分)の激減を來し總價額に於て8,484圓(7厘)の増加を來してゐる。

蠶種生産額は238,946圓で前年より17,041圓(6分7厘)少く、製造場數12となつてゐる、眞綿は製造場數僅に6にして産額2,110圓に過ぎず前年に比し120圓を増してゐる。

	總價額	養 蠶			蠶絲類	蠶 種	眞 綿	現 住 一人當
		總 額	春 蠶	夏 秋 蠶				
		總			數			
昭和	年	円	円	円	円	円	円	円
8		7,245,203	5,158,865	2,837,962	2,320,903	1,819,179	265,659	1,500
//	9	3,895,122	2,215,389	1,146,231	1,069,158	1,339,851	337,982	1,900
//	10	5,699,693	3,788,887	1,452,002	2,336,885	1,658,132	251,014	1,660
//	11	5,293,343	3,766,703	1,657,624	2,109,079	1,268,663	255,987	1,990
//	12	5,041,074	3,522,871	1,764,258	1,758,613	1,277,147	238,946	2,110
		郡			市 別			
添上	郡	153,404	145,139	80,802	64,337	8,265	—	3.99
生駒	郡	86,306	86,306	55,051	31,255	—	—	1.01
山邊	郡	468,880	383,585	199,575	184,110	2,616	82,579	10.97
磯城	郡	1,483,157	500,191	280,398	219,793	981,916	—	18.60
宇陀	郡	566,803	443,425	134,367	309,058	10,393	112,985	14.83
高市	郡	201,542	198,546	102,193	96,353	355	1,641	4.28
北葛城	郡	152,835	152,835	85,258	67,577	—	—	1.96
南葛城	郡	141,942	141,942	72,774	69,168	—	—	4.30
宇智	郡	401,078	370,823	187,436	183,387	14,788	15,467	15.53
吉野	郡	1,385,127	1,099,979	566,404	533,575	258,814	26,274	60
奈良	市	—	—	—	—	—	—	—

工 業

工場 工場調査規則に依り職工五人以上を使用し又は五人以上の職工を使用する設備を有つ昭和十二年末の工場は1,114で前年に比し311を増してゐる、之を種類別に観ると紡織工業の302(2割7分1厘)最も多く、食料品工業の236(2割1分2厘)之に亞ぐ他の金屬工業、機械器具

工業、窯業、化學工業、製材工業、印刷業、瓦斯電氣工業等は合せて603である、工場に勤務する労働者の總數は15,772人で前年より2,444人(1割6分8厘)多く、工場の年内生産額は58,226,272圓で前年より11,768,088圓(2割5分3厘)多く、總工産額の6割9分9厘を占めてゐる。

工産物價額 昭和十二年に於ける工産物價額は83,348,595圓で前年に比し9,007,305圓(1割2分1厘)を増し逐年増加の趨勢を示してゐる。

種類別に觀て最も多いのは紡織製品の34,505,098圓で總額の4割1分4厘に當り、現住人口一人に付ての工産額は133圓31錢となつてゐる、郡市別に觀ると二大紡績工場と大和賣藥の主産地及奈良市が最も多く、奈良市12,778,709圓、北葛城郡19,384,943圓、生駒郡13,170,129圓、高市郡12,809,169圓で之等一市三郡を合せて總額の6割9分8厘を占めてゐる。

最近五ヶ年間に於ける比較並に郡市別は次の通である。

		總價額	紡織製品	機械及器具製品	化學製品	飲食品料	雜製品	特別製品	現住一人當
總 數									
昭和	年	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	8	60,597,626	23,501,304	1,208,982	16,977,064	9,845,870	8,878,629	185,777	97.79
〃	9	67,281,976	28,881,037	1,693,260	17,242,805	9,770,549	9,516,372	177,953	108.70
〃	10	69,234,037	29,928,588	1,733,191	17,688,789	9,608,678	10,099,736	175,055	112.46
〃	11	74,341,290	29,553,626	5,952,080	15,254,938	11,046,343	12,361,449	172,854	119.26
〃	12	83,348,595	34,505,098	2,108,206	19,363,484	11,787,943	14,512,610	171,254	133.31
郡 市 別									
添上郡		1,090,258	314,828	42,178	83,051	532,027	118,174	—	28.34
生駒郡		13,170,129	10,036,336	29,508	406,104	1,296,263	1,401,918	—	153.90
山邊郡		2,124,367	402,260	72,432	110,015	1,063,359	476,301	—	49.71
磯城郡		9,391,693	2,475,566	51,692	1,434,408	1,736,267	3,693,760	—	117.78
宇陀郡		797,980	46,850	18,678	35,902	459,548	237,002	—	20.89
高市郡		12,809,169	2,308,200	652,310	8,280,600	617,627	950,387	—	272.12
北葛城郡		19,384,943	13,077,590	741,679	1,721,683	1,887,639	1,956,342	—	248.13
南葛城郡		5,236,111	818,329	8,159	3,313,632	674,510	421,481	—	158.56
宇智郡		2,724,486	1,160,916	60,154	194,709	460,491	848,216	—	105.51
吉野郡		3,840,750	92,988	28,820	788,502	1,680,236	1,250,204	—	38.70
奈良市		12,778,709	4,671,235	402,596	2,994,868	1,379,931	3,158,825	171,254	223.48

林 業

山林面積 昭和十一年末に於ける山林面積は179,000町4段で前回調査の昭和八年末に比し33町6段の減少を來してゐる。

之を種類別に觀ると御料林は67町3段(1厘)、國有林は2,825町3段(1分6厘)、民有林は176,107町8段(9割8分3厘)で更に之を郡市別に觀て最も多いのは吉野郡の125,93

5町5段で總面積の7割3厘を占め宇陀、添上、山邊、生駒、宇智、磯城、南葛城、高市北葛城の諸郡順次之に亞ぎ最少は奈良市である。

森林植栽 昭和十二年中に於ける森林新植面積は3,238町3段で之が新植樹數は15,090,991本に及んでゐるが前年に比し面積に於て570町2段(1割2分9厘)樹數に於て988,556本(7分)を夫々増加してゐる、新植は吉野郡がその大部分を占め、面積2,821町9段、樹數11,379,136本で總面積の8割7分1厘總樹數の7割5分4厘に該り他郡は併せて面積416町4段、樹數3,711,855本に過ぎない。

森林補植は1,068,437本で前年に比し360,897本(5割1分)を増し、縣下各郡中吉野郡は808,393本で總補植樹數の7割5分7厘を占めてゐる。

天然造林 昭和十二年中に於ける天然造林は875町7段で内伐採跡地の天然造林は833町5段、無立木地は42町2段である、造林面積の最も多いものは宇陀郡218町1段(2割4分9厘)にして、添上、吉野、山邊の諸郡は何れも百町歩を超え南葛城、生駒、磯城、高市、北葛城、宇智の諸郡順次之に亞ぎ奈良市は最少である。

林産物價額 昭和十二年に於ける林産物價額は10,331,480圓で前年に比し1,979,935圓(2割3分7厘)を増加してゐる。

之を種類別に觀ると用材は7,886,099圓(7割6分3厘)薪炭材749,012圓(7分3厘)竹材31,957圓(3厘)で林野副産物は1,664,412圓(1割6分1厘)である。

最近五ヶ年間に於ける比較並にその概況は次の通である。

		總價額	用材	薪炭材	竹材	林野副産物	現住一人當
		總			數		
昭和	年	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	8	4,975,686	3,512,031	449,440	25,972	988,243	8.03
〃	9	6,212,061	4,346,597	569,460	28,377	1,267,627	10.04
〃	10	8,853,834	7,049,340	487,868	24,453	1,292,173	14.38
〃	11	8,351,545	6,427,388	516,405	39,530	1,368,222	13.40
〃	12	10,331,480	7,886,099	749,012	31,957	1,664,412	16.52
		郡			市		
添上	郡	288,636	31,030	78,469	3,977	175,160	7.50
生駒	郡	101,506	7,953	18,760	7,018	67,775	1.19
山邊	郡	337,442	76,890	73,925	2,282	184,345	7.90
磯城	郡	233,114	104,832	48,933	1,833	77,516	2.92
宇陀	郡	986,142	425,808	208,038	2,590	349,706	25.81
高市	郡	118,916	51,139	38,011	1,131	28,635	2.53
北葛城	郡	43,208	15,939	10,922	530	15,817	0.55
南葛城	郡	138,013	18,587	71,258	1,286	46,882	4.18
宇智	郡	125,945	31,992	31,207	1,860	60,886	4.88
吉野	郡	7,954,846	7,120,973	168,838	9,450	655,585	80.15
奈良	市	3,712	956	651	—	2,105	0.06

鑛 業

鑛産物價額 昭和十二年の鑛産物價額は776,885圓で前年より230,011圓(4割2分1厘)を増加してゐる。

之を種類別に観ると採掘鑛産物は88,883圓(1割1分4厘)石材、土石及鑛水は988,002圓(8割8分6厘)で、吉野郡の246,171圓首位にして總額の3割1分7厘に當り次に全國的な金剛砂を産する北葛城郡は次に位し其の産額202,116圓で總額の2割6分を占めてゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通である。

		總 價 額	採 掘 鑛 産 物	石 材 ・ 土 石 及 鑛 水	現 住 一 人 當
		總	數		
年	圓	圓	圓	圓	圓
昭和	8	359,470	43,976	314,494	0.57
〃	9	453,933	50,118	403,815	0.73
〃	10	557,895	81,095	476,800	0.91
〃	11	546,874	47,960	498,914	0.88
〃	12	776,885	88,833	688,002	1.24
		郡 市 別			
添 上 郡		22,816	—	22,816	0.59
生 駒 郡		156,828	—	156,828	1.83
山 邊 郡		17,558	—	17,558	0.41
磯 城 郡		31,392	—	31,392	0.39
宇 陀 郡		47,992	25,679	22,313	1.26
高 市 郡		12,529	—	12,529	0.27
北 葛 城 郡		202,166	—	202,166	2.59
南 葛 城 郡		2,108	—	2,108	0.06
宇 智 郡		35,765	—	35,765	1.39
吉 野 郡		246,171	63,204	182,967	2.48
奈 良 市		1,560	—	1,560	0.03

水 産 業

水産業者 昭和十二年末現在の水産業者は總數4,647人内男4,581人、女66人で業主は4,334人被用者は313人である、水産業を本業とする業主は149人、被用者は114人で副業とする業主は4,185人、被用者は199人である。前年末に比して業主に於て176人(3分9厘)を減じ被用者に於て56人(2割1分8厘)を増加してゐる。

水産物價額 昭和十二年に於ける水産物價額は776,450圓で前年に比し86,511圓(1割2分5厘)を増してゐる、之を種類別に観るに、養殖656,655圓(8割5分)漁獲119,795圓(1割5分)である、金魚を産する郡山町を有つ生駒郡はその産額最も多く468,261圓で水産總額の6割3厘を占め、金魚はその産額378,775圓で本縣水産業の王座を獨占してゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通である。

		總 價 額	養 殖 漁 獲	現 一 人 當	住 當
		總 數			
昭和	年	円	円	円	円
	8	644,132	546,444	97,679	1.04
"	9	648,001	549,709	98,292	1.05
"	10	628,115	518,590	109,525	1.02
"	11	689,939	578,547	111,392	1.11
"	12	776,450	656,655	119,795	1.24
		郡 市 別			
添 上 郡	郡	35,399	31,380	4,019	0.92
生 駒 郡	郡	468,261	461,997	6,264	5.47
山 邊 郡	郡	28,206	26,634	1,572	0.66
磯 城 郡	郡	29,282	27,439	1,843	0.37
宇 陀 郡	郡	10,813	4,971	5,842	0.28
高 市 郡	郡	13,441	12,194	1,247	0.29
北 葛 城 郡	郡	85,368	64,210	21,158	1.09
南 葛 城 郡	郡	13,432	10,216	3,216	0.41
宇 智 郡	郡	27,001	1,548	25,453	1.04
吉 野 郡	郡	60,853	11,672	49,181	0.61
奈 良 市	市	4,394	4,394	—	0.08

畜 産 業

家 畜 昭和十二年末現在調査の家畜飼養戸数を見るに牛に於ては18,931戸、馬に於ては191戸にして豚は540戸なり。

尙其の他の家畜中について観るに山羊は飼養戸数141戸頭数199頭、内牝167頭、牡32頭で前年より31戸(2割8分2厘)23頭(1割3分1厘)を増し、綿羊は近年相當の増加を示し飼養戸数115戸その頭数269頭、家兎(昭和十二年調査開始)は飼養戸数1,670戸匹数9,331匹にして年内生産8,228匹に達してゐる。

家 禽 昭和十二年六月末に於ける家禽中鶏は飼養戸数37,704戸羽数707,044羽で前年に比し戸数に於て106戸(3厘)羽数に於て123,392羽(1割4分9厘)何れも減少してゐる。昭和十年七月より同十一年六月に至る産卵は個数32,870,494個でその價額は969,546圓に及び、前年に比し前者に於て63,307個(2厘)、後者に於て73,845圓(8分2厘)何れも増加して生雛の價額144,255圓と相俟つて1,113,801圓に達し本縣畜産物總價額の4割5分4厘を占めてゐる。

鶯は1,975羽その飼養戸数は151戸で前年に比し戸数に於て54戸(2割6分3厘)を減じ羽数に於て547羽(3割8分3厘)を増加してゐる、一ヶ年間の産卵は64,294個、その價額は2,227圓である。

養 蜂 昭和十二年末に於ける蜜蜂の飼養戸数は369戸にして前年より13戸を減じ、箱数は1,630個である、同年中の蜜蜂の産額は9,486圓で前年に比し493圓(5分5厘)を増加し、蜜蠟は僅に21圓に過ぎない。

畜産物價額 昭和十二年に於ける畜産物價額は2,454,123圓で前年に比し254,513圓(1割1分6厘)を増し種別類に觀ると犢は155,875圓(6分4厘)鶏(産卵共)1,113,801圓(4割5分4厘)牛乳211,607圓(8分6厘)屠殺941,204(3割8分3厘)その他31,636圓(1分3厘)である。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別の概況は次の通り。

	總價額	犢	豚	仔細羊及 仔山羊	鶏 (産卵共)	鶯 (産卵共)	蜜 蜂 (蜂 蜜 蜜 蠟 共)	牛 乳	屠 殺	家 兔 (仔 兎 及 剥 皮)	現 住 一人當
總 數											
昭和8	1,822,634	34,868	19,619	196	841,530	1,758	8,884	175,996	739,733	—	2.94
〃 9	2,012,061	39,579	7,318	938	1,003,865	1,914	9,822	190,217	758,408	—	3.25
〃 10	2,080,041	72,406	7,158	423	978,340	2,944	8,086	196,752	813,932	—	3.38
〃 11	2,199,610	108,155	12,997	257	1,079,884	1,717	9,008	223,692	763,900	—	3.53
〃 12	2,454,123	155,875	13,482	1,391	1,113,801	2,528	9,507	211,607	941,204	4,728	3.93
郡 市 別											
添上郡	176,212	5,353	783	141	165,136	1,481	313	1,500	—	1,505	4.58
生駒郡	423,356	1,640	2,963	68	185,303	113	283	11,741	220,900	345	4.95
山邊郡	136,693	6,808	3,043	224	103,862	68	192	14,200	7,433	863	3.20
磯城郡	338,863	14,132	2,678	183	203,906	186	4,870	30,307	81,615	986	4.25
宇陀郡	146,835	42,785	303	65	48,435	217	615	12,625	41,608	182	3.84
高市郡	86,129	2,920	312	90	77,009	75	179	5,525	—	19	1.83
北葛城郡	464,655	3,194	26	90	125,606	33	937	45,285	289,427	57	5.95
南葛城郡	166,913	13,254	585	34	36,083	97	100	30,638	85,914	208	5.05
宇智郡	150,199	12,637	—	30	53,248	49	618	18,075	65,406	136	5.82
吉野郡	218,316	42,532	2,235	466	99,626	101	1,346	19,911	51,672	427	2.20
奈良市	145,952	10,620	554	—	15,587	108	54	21,800	97,229	—	3.93

商 業 及 金 融

會 社 本縣内に本社又は本店を有する昭和十二年末の會社は421その拂込資本金及出資額は總額35,186千圓で前年に比し社數9を減じてゐるが、拂込資本金及出資額は2,223千圓を減少してゐる。

會社の組織より觀ると株式會社153、合資會社164、合名會社104で拂込資本金又は出資額は株式28,731千圓、合資3,858千圓、合名2,598千圓でその平均は株式188千圓、合資24千圓、合名25千圓である。

總會社を資本金高別に觀ると1萬圓未満164、五萬圓未満153、十萬圓未満47、五十萬圓未満44、百萬圓未満9で百萬圓以上のものは僅に株式會社に於て4を數ふるに過ぎない、更に之

を業態別に區別すると商業の194最も多く總數の4割6分1厘を占め、工業の149、運輸業の49、農業の26、水産業の2順次之に亞ぎ鑛業は1會社に過ぎない。

銀 行 昭和十二年末に於て本縣内に本店を有つ銀行は3行その支店及出張所は53にして支店は前年に比し10を増してゐる、拂込資本金は10,420,375圓、準備金は4,966,700圓にして前年に比して前者は3,498,600圓減少し、後者は220,000圓を増加してゐる、昭和十二年中の入金は1,969,379,961圓、出金は1,969,370,275圓で、利益金は1,116,871圓、配當金は705,000圓である、昭和十二年末の預金現在高は58,214,074圓にして前年末に比し5,588,623圓(1割)を増してゐる。

郵便貯金及郵便爲替 昭和十二年度末に於ける郵便貯金預入人員は492,220人、その金額は44,801,241圓で前年より25,915人、3,266,546圓多く、預入人員一人當金額は91圓2錢にして前年度末に比し一人當1圓91錢を増してゐる。

昭和十二度中に於ける内國郵便爲替振出は口數241,522口、その金額5,856,763圓、平均一口24圓25錢にして前年に比し18,803口28,949圓を減じてゐる、拂渡は口數357,064口その金額8,280,380圓、平均一口23圓19錢で口數に於て13,775口を減じ金額に於て233,528圓を増してゐる、外國郵便爲替は振出157口7,283圓、拂渡6,142口205,380圓で前年度に比し振出107口3,730圓を各々減じ、拂渡3,164口127,312圓の夫々増加を示してゐる。

質 營 業 昭和十一年末に於ける質營業者は141戸で前年末より4戸少く、その入質件数は173,658件、貸付金額は668,850圓一件當貸付金は3圓79錢となり、前年より3,014件46,891圓を減じてゐる、受戻件数は144,083件之が金額563,500圓で前年より4,575件多く金額に於て3,629圓少く、流質件数は22,579件110,743圓にして前年に比し1,072件21,564圓多くなつてゐる。

交 通 及 災 害

道 路 昭和十二年末に於ける道路總延長は15,704軒338、内國道57軒647、縣道1,228軒917、市道207軒921、町村道14,209軒853で前年末に比し19軒807を増してゐる。

鐵道軌道 昭和十一年末鐵道軌道延長は268軒4で内國有94軒6、私有173軒8、停車及停留場142、内國有26、私有116である、同年中に於ける(以下官設鐵道は含まず)乗車人員は19,123,780人(一日平均52,394人)降車人員19,189,551人(一日平均52,574人)で貨物營業收入の内旅客收入は2,6485,33圓、貨物及手小荷物收入は139,143圓である。

通 信 昭和十二年度末に於ける郵便局は集配局69、無集配局61、總數130で前年より3局を増してゐる、同年度中の郵便物は通常郵便の引受42,791,119、配達48,202,979で人口に對する割合は一人につき引受68通、配達76通に該つてゐる、小包郵便は引受721,957、配達672,110で人口一人につき一通個の小包を收發してゐる譯である。

電信取扱局は118で發信334,058、受信368,963となり前年に比し局數9を増し、發信21,107、受信55,299を夫々増加してゐる。

電話取扱局所は總數118、内交換局93、通話局25にして電話加入者は8,314人となり前年

に比し局数9、加入者1,769人を増加し人口千に對する加入者の割合は13人となつてゐる。

水災及暴風雨被害 昭和十二年の水災及暴風雨被害損失見積價額は1,493,778圓である、特に被害の多かつたのは紀ノ川流域に於ける被害損失見積價額の498,438圓にして總見積價額の3割3分4厘を占め、大和川流域は394,841圓、淀川流域の299,864圓之に亞ぎ、熊野川流域は212,167圓である。

社 會

救護法に依る救護 昭和七年一月より新に實施せられた救護法により昭和十二年度中に救護を受けた者の内縣費負擔に係る者の實人數は22人で經費542圓、又市町村費負擔に係る者の實人員は1,733人で同一人にて二種以上の救護法を受けた者67人で經費は51,714圓に達し縣市町村合せて前年より人員3人を減じ金額は2,453圓を増してゐる。

慈惠賑恤資金 昭和十二年度末の慈惠賑恤資金歳入出内歳入21,798圓、歳出20,792圓にして其の主なるものは教護院費、補助費等で二者合せて17,216圓、總支出の8割2分8厘を占めてゐる。

慈善團體 昭和十二年末に於ける慈善團體は15、職員は202人にして收容人員314人、内男216人女98人で個人經營に係る天理養徳院は最も多く238人を收容してゐる。

常設及農繁託兒所 昭和十二年末に於ける常設託兒所は19、職員129人、收容託兒1,221人、經費22,128圓に及び次第に増加してゐる、同年七月末の農繁託兒所は68、託兒3,028人、經費2,572圓で逐年増加の傾向がある。

行旅病死 昭和十二年度末現在の行旅病人は2人で年度内に新に救護を受けた者は36人である、同年度中の行旅死亡人は40人中27人は變死者である。

日本赤十字社及愛國婦人會 昭和十二年末に於ける赤十字社員は27,823人中中佩有功章38人、特別724人、終身正16,236人、正社員10,825人で、愛國婦人會員は22,863人中中佩有功章615人、特別維持32人、特別1,084人、通常21,123人となつてゐる。

勞 働

勞働統計實地調査結果 昭和十一年十月十日勞働統計實地調査の結果に依る工場數(原則として50人以上の勞働者を使用するもの)は69、勞働者は7,195人中男2,651人、女4,544人で一工場に付き平均勞働者は104人である、鑛山(50人以上の勞働者を使用するもの)は1にしてその勞働者は191人中男165人、女26人となつてゐる、工場の男女使用の割合は女100に付男58.3人となつてゐる。

小作爭議 昭和十二年に於ける小作爭議は129件、關係者4,896人、中地主1,077人、小作人3,819人、關係地2,098町歩、内田2,089町6段、畑8町4段で前年より1件多く、關係者に於て10人減少せしも關係地に於て313町の増加を示してゐる。

健康保険

工場及被保険者 昭和十二年度末に於ける健康保険法適用工場及事業場数は1,027で前年度に比し80(8分4厘)を増加してゐる。

被保険者は總數11,937人中男6,878人、女5,059人で前年度に比べて1,026人(9分4厘)を増してゐる。

保険給付及保険料 昭和十二年度中の保険給付は總件數28,828件に及び、その給付額は35,849圓である、中傷病に關する給付は28,101件(7割8分4厘)26,276圓(7割3分3厘)で保険給付の大部を占め、死亡及分娩に關する給付は727件、9,573圓である、同年度中の保険料収入額は132,160圓で前年度より14,058圓(1割1分9厘)を増してゐる。

教育

學齡兒童 昭和十三年三月一日現在に於ける學齡兒童總數は115,829人で男は58,672人、女は57,157人中就學始期既達者は101,309人(男51,314人、女49,995人)就學始期未達者は14,520人、(男7,358人、女7,162人)で前年度に比べ前者は33人を、後者は487人を、總數に於て520人を共に減じてゐる、學齡兒童の中尋常小學校の在學者及卒業者は100,959人で、不就學兒童は350人ありその中就學猶豫は255人、就學免除は95人となつてゐる、就學始期既達者100人中の就學歩合は99.65人にして前年度に比し0.02人を減じてゐる。

小學校 昭和十三年三月一日現在に於ける小學校は322校ありその内譯は尋常小學校121、尋常高等小學校198、高等小學校3で前年度と同じである。

學級は尋常340、尋常高等2,018、高等11、合計2,369で前年度に比し40學級を増してゐる、教員は總數2,632人内男1,751人、女881人で前年度より41人多い、教員を資格別に觀ると小學校本科正教員2,051人(7割7分9厘)、尋常小學校本科正教員177人(6分7厘)専科正教員112人(4分3厘)、准教員6人(2厘)、代用教員286人(1割9厘)となつてゐる。

兒童は102,380人、内尋常科86,001人、高等科16,379人で前年度より尋常科、高等科共に多く、合計に於て492人(4厘)を増してゐる。

入學者は23,324人内尋常科14,524人、高等科8,790人で前年度より108人(5厘)少く、卒業者は尋常科13,635人、高等科7,537人、合計21,172人で前年度より629人(3分1厘)を増してゐる。

師範學校 縣立二校ありその學級19、教員は兼務者を除き42人で内有資格者39人、無資格者3人となつてゐる、生徒は408人、入學者150人、卒業者147人で何れも前年と大差なく入學歩合は志願者百に付き35人となつてゐる。

青年學校教員養成所 縣立農事試驗場に併置し學級1、教員10人、内専務者2人、兼務者8人で生徒は18人あり、隔年に20人内外の卒業者を出してゐる。

中學校 縣立5校、私立3校あり學級は合計111で教員の總數は他よりの兼務者を除き194人、一校當の教員は24.3人となつてゐる、教員の内有資格者は173人で總數の8割9分を占め、

生徒は總數5,042人で前年より263人を増して一校當630人、教員一人當26人となつてゐる
卒業者は783人で前年度より29人多い、入學者は1,204人で入學者願書に對する割合は百人
につき67.0人である。

高等女學校 縣立6校、町立1校、私立2校、合計9校あり、學級は109、教員は本務者189人で内
有資格者176人(9割3分1厘)となつてゐる、生徒の總數は4,960人で、逐年増加し前年度
より261人(5分5厘)多く、卒業者は935人、入學者(第一學年)は1,165人となつてゐる
入學志願者百人に對する入學者の割合は77人である。

實業學校 (甲)校數は14でその内譯は農業3、工業2、商業2、職業學校7となつてゐる、學級は
合計85、内農業20、工業15、商業17、職業33で前年度より8學級を増し、教員153人、
内農業38人、工業32人、商業30人、職業53人で前年度と大差なく生徒は總數3,526人で
内農業886人、工業567人、商業760人、職業1,313人前年度より163人を増してゐる、入
學者は985人でその内譯は農業215人、工業116人、商業220人、職業451人となり第一
學年の志願者百人につき入學者の割合は農業64人、工業44人、商業57人、職業96人となつ
てゐる。

卒業者874人内農業151人、工業107人、商業116人、職業500人で前年度に比べて13
人を増してゐる。

實業學校 (乙)農業2、職業2、合計4校あり、學級は13、内農業6、職業7にして前年度と移動
なく兼務者を除く教員は16人、内農業9人、職業7人である、生徒505人、内農業268人職
業237人で前年度に比し22人を減じてゐる。

入學者は224人、内農業88人、職業111人で本科の入學志願者百人に對する入學者は農業
78人、職業94人で卒業者は171人、内農業87人、職業84人となつてゐる。

青年學校 校數235、内私立2校にしてその學級は544で教員は本務者207人、兼務者1,149人と
なつてゐる、指導員は721人で生徒の總數は14,660人内男11,284人、女3,376人で一校
當の生徒數は62.4人で入學者は8,343人、卒業者2,957人であるが年度内の退學者2,893人
を算してゐるのは遺憾である。

盲啞學校 1校あり11學級で教員14人、生徒は102人で内學齡兒童は61人の過半數を占めてゐ
る入學者は32人、卒業者は10人で前年度に比べて教員に於て3人、生徒に於て8人を増して
ゐる。

各種學校 23校あり學級114で教員は本務者138人、兼務者155人となつてゐる、縣内に本部を
有つ天理教の教校が甚だ大きい爲生徒數も極めて多く3,716人となり、入學者及卒業者も前者
6,572人、後者5,700人の多數に上り昭和十二年度の經費總額も收入302,750圓、支出44
2,364圓に達してゐる。

幼稚園 園數は17で逐年その數を増し組數58、保母68人、幼兒1,779人、入園兒1,639人、
保育滿期者1,337人で前年度より組數4、幼兒151人、入園兒150人、保育滿期者97人を
各増してゐる。

圖書館 圖書館令に依る圖書館は館數86で藏書冊數は310,580冊、開館延日數22,675日で閱
覽人員は302,481人となり前年度に比べて圖書冊數6,042冊、閲覽人員12,399人を増して

る、一館當り一日の閲覧人員は92人餘りとなつてゐる。

青年團 青年團は男女合せてその數296で内男149、女147で團員の總數は37,821人、内男22,869人、女14,952人で支出經費は50,140圓となつてゐる、前年度に比し團數に於て統一せし爲2を減じ、團員は300人を減じてゐる、一青年團當りの經費は169圓餘となつてゐる。

公學費 昭和十二年度の公學費歳入總額は1,785,131圓、内縣費586,255圓、市費43,860圓、町村費1,155,016圓で前年度より27,438圓(1分5厘)を増してゐる、歳出總額は4,830,367圓、内縣費1,542,824圓、市費174,218圓、町村費3,113,325圓で前年度より353,048圓(7分3厘)を減じてゐる。

公學資産 昭和十二年度末に於ける公學資産の總見積價額は15,637,289圓で内縣に屬するものは4,260,535圓、市1,608,137圓、町村9,768,617圓で前年度より1,477,358圓(1割4厘)多くなつてゐる、建物の價額は9,743,233圓で總價額の6割2分3厘を占め土地價額は敷地附屬地を合せて3,366,691圓(2割1分5厘)圖書機械、標本器具價額は合せて2,527,365圓(1割6分2厘)となつてゐる。

社 寺

神 社 昭和十二年末の神社は1,520でその内譯は官幣社10、縣社24、郷社28、村社1,048、無格社409、招魂社1となつてゐる、この中神饌幣帛料供進指定神社は410となつてゐる。

神 職 昭和十二年末に於ける神職は總數337人内官幣社60人、縣社42人、郷社46人、村社186人、無格社3人で前年末に比べて9人多く、神社一につき神職の數は官幣社6.0人、縣社1.8人、郷社1.6人、村社0.2人となつてゐる。

寺 院 昭和十二年末の寺院は1,799で前年末より1ヶ寺を増し眞宗の631ヶ寺が最も多く、淨土宗の346ヶ寺、眞言宗の340ヶ寺之に亞ぎ、其の他の各宗の寺院は合せて482ヶ寺に過ぎない。

住 職 寺院に仕ふる住職は昭和十二年末に於て總數1,330人で前年より8人を減じてゐる、眞宗の549人は最も多く淨土宗の249人、眞言宗の204人、融通大念佛宗の142人等はその主なるもので、その他は合せて186人に過ぎない、一寺院に對する住職の割合は0.7人に該る。

警 察

警察職員 警察部及縣下18警察署の職員總數は534人で内515人は警察官にして職員總數の8割6分4厘に該つてゐる。

定員巡査1人に對する人口は1,080人で更に之を警察署に屬する警部補巡査の總數498人に對比すれば1,255人に該つてゐる。

交通事故 昭和十二年に於ける自動車、自動自轉車、自轉車、電車、汽車、人力車、荷車等に依る交通事故の件數は145件なり其の最も多きは自動車の90件で總數の6割2分1厘を占め、電車

の24件、汽車の13件等順次之に並び、死者数は40人、傷者数は150人で歩行者の被害最も多く70件で死傷合せて80人に及んでゐる。

火災及消防 昭和十二年に於ける家屋火災の度数は130件で失火は115件に及び總數の8割8分5厘を占め、之を住家非住家別に観ると住家の内全焼棟数は216、半焼棟數27で其の焼失建坪は4,844坪となり、非住家は全焼棟數は111、半焼棟數は26で其の焼失延坪は1,402坪となつてゐる。

火災に依る損害見積總額は2,853,031圓にして前年より2,498,757圓多く火災度數1回に付21,946圓の割合である。

山林、原野の火災度数は41件あり前年より10件少い、焼失坪數は242,250坪で損失見積額は50,962圓となつてゐる。

消防組は昭和十二年末に於て消防組162あり、その組員の總數は19,881人で一年間の經費は104,803圓となつてゐる、ガソリン唧筒は自動車16、オートバイ1で其の他のものは253あり腕用唧筒は次第に減少して285となつてゐる。

變 死 昭和十二年中の變死者の總數は306人で前年より17人多く、之を種類別に観ると自殺173人、被殺害17人、災害其の他116人にして自殺總數の5割6分5厘に該る、自殺者の173人を因由別に観ると其の主なるものは病苦に依る49人(2割7分7厘)精神錯亂の33人(1割9分1厘)其の主なるものである。

自殺者を年齢別に観れば50歳以上が59人にして其の首位を占め、20歳以上30歳未満の40人、40歳以上50歳未満の27人、30歳以上40歳未満の20人等は最も多い。

投宿人員 昭和十二年中の投宿總人員は859,971人で一日平均2,356人の割合となり、前年中に比較すれば86,245人(1割1分1厘)を増してゐる、總數の中92,460人(1割7厘)は本縣人で其の大多數は他府縣人が占め、772,345人(8割9分8厘)で外國人は1,380人に過ぎない。

精神病者 昭和十二年末に於ける精神病者は1,026人で前年より比し16人少く總數の中771人(7割5分1厘)は收容又は監置を要せない者である。

貸 座 敷 昭和十二年末の貸座敷數は75、娼妓は744人でその一戸當10人となつてゐる、同年中の遊興人員は481,147人、その費消金額は1,063,160圓で前年に比べて前者3,505人(7厘)後者80,409圓(8分2厘)を各増加してゐる。

犯 罪 昭和十二年中に於ける犯罪の發生件數は9,685件にして前年に比し989件(9分3厘)を減少してゐる、犯罪中最も多いものは詐欺及恐喝の罪1,818件で強竊盜の罪1,657件、諸法令違反は2,004件、業務上横領の罪1,084件等は其の發生の多いもので之等を合して6割7分7厘に該り、他の犯罪は併せて1割7分5厘に過ぎない。

縣外發生事件を含む檢舉件數は12,074件で前年より1,554件(8分3厘)を減少してゐる。

衛 生

醫 師 昭和十二年末の醫師總數は359人、その免許資格別を観ると官公私立専門學校卒業208

人(5割7分9厘)大學卒業101人(2割8分1厘)試験及第48人(1割3分4厘)從來開業1人(3厘)限地開業1人(3厘)となつてゐる。

醫師一人に對する人口の割合は1,742人で郡市別に觀て最も高いのは添上郡の2,747人で最も低いのは奈良市の880人である。

齒科醫師 昭和十二年末の齒科醫師總數は156人で前年より11人多く、之を資格別に觀れば指定學校の卒業者は88人で總數の5割6分4厘に該り、試験及第は68人(4割3分6厘)となつてゐる。

藥劑師 昭和十二年末現在の藥劑師總數は254人で前年より15人を増したのみである、官公私立指定藥學專門學校卒業181人にして總數7割1分3厘に當り、試験及第者は73人となつてゐる

産 婆 昭和十二年末の産婆は669人にして前年末より12人多い。

傳 染 病 昭和十二年中の法定傳染病患者は陽チブス338人、赤痢90人、ヂフテリヤ154人、猖紅熱31人、パラチブス10人、流行性腦脊髓膜炎3人、合計626人に及び前年に比して59人(1割4分3厘)を減少してゐる、以上の中死亡率の最も高いものは流行性腦脊髓膜炎の6割6分7厘で、ヂフテリヤの2割2分7厘、赤痢及パラチブスの2割、陽チブス1割9分5厘、猖紅熱5分の順となつてゐる。

種 痘 昭和十二年に於ける第一期公種痘17,079人で其の善感割合は9割6分6厘である、同年中の第一期私種痘384人で善感割合は9割8分4厘、第二期公種痘16,501人で其の善感割合7割9分8厘、第二期私種痘は49人で善感割合は8割3分7厘となつてゐる。

裁 判 及 登 記

民 事 裁 判 昭和十二年中の各裁判所に於ける民事終局件數は8,705件、内第一審訴訟4,418件、控訴81件、抗告19件、非訟2,698件、和解50件、督促1,270件、強制執行169件で前年より502件(6分1厘)を増してゐる。

登 記 昭和十二年中の登記件數は總數60,566件で登録税及手数料は330,535圓に及び前年に比べて前者は2,852件を減少し、後者は19,099圓を増してゐる、甲號の不動産登記は41,329件でその登録税は307,542圓に及び登記の最も主要な部分を占め、甲號登記の主なるものには以上の外産業組合登記542件、商事會社登記534件、養蠶實行組合登記311件、農業用動産低當權登記72件等がある。

財 政

國 費 昭和十二年度に於ける國庫經費の本縣支出額は3,825,332圓で内經常部は1,294,878圓(3割3分9厘)臨時部は2,530,454圓(6割6分1厘)となつてゐる。

縣 費 昭和十二年度に於ける縣歳入額は7,174,079圓で内經常部は3,354,026圓、臨時部は3,820,053圓となり前年度に比べて308,790圓(4分5厘)を増してゐる、稅收入は2,530,398圓で歳入總額の3割5分3厘に該り、その他の主なるものは縣債の1,396,400圓(1割9分

5 厘) 國庫補助金の 1,134,733 圓 (1 割 5 分 1 厘) 使用料及手数料の 509,807 圓 (7 分 1 厘) 等である。

歳出は總額 6,677,281 圓、内經常費 2,773,778 圓、臨時部 3,903,503 圓で前年度より 266,695 圓 (4 分 2 厘) 多く、その主なるものは土木費 1,374,913 圓 (2 割 0 分 6 厘)、教育費 838,919 圓 (1 割 2 分 6 厘) 警察費 751,126 圓 (1 割 1 分 2 厘) 等である。

市町村費 昭和十一年度に於ける市町村費歳入額は 9,566,486 圓にして前年度より 7,157 圓 (7 厘) 少く、歳入の内稅收入は 3,887,632 圓で總額の 4 割 6 厘を占め、繰越金 1,367,371 圓 (1 割 4 分 3 厘) 國庫下渡金 903,128 圓 (9 分 4 厘) 繰入金 533,605 圓 (5 分 6 厘) 寄附金 529,504 圓 (5 分 5 厘) 町村債 446,103 圓 (4 分 7 厘) 等は其の主なるものである。

歳出は總額 8,521,653 圓で前年度より 342,312 圓 (4 分) 多く、歳出の主なるものは教育費 3,613,546 圓 (4 割 2 分 4 厘) が筆頭で役所役場費は 1,325,602 圓 (1 割 5 分 6 厘) 公債費 620,212 圓 (7 分 3 厘) 土木費 596,426 圓 (7 分) 等は其の主なるものである。

諸稅負擔 昭和十一年度に於ける縣民負擔の租稅は總額 8,950,078 圓で前年度より 460,276 圓 (5 分 4 厘) を増してゐる、租稅の内譯は直接國稅 2,035,087 圓、縣稅 3,027,359 圓、市町村稅 3,887,632 圓で之を現住戸口に對比すると一戸當りは國稅 16 圓 58 錢、縣稅 24 圓 66 錢、市町村稅 31 圓 66 錢、合計 72 圓 90 錢で人口一人當は總額 14 圓 36 錢となり一人當にして前年度より 57 錢を増してゐる。

選舉及官公吏

選 舉 毎七年改選の貴族院議員多額納稅者議員の昭和七年九月第七回選舉に於ける議員定數は 1 人互選資格者は 100 人である、互選權を有する者の直接國稅の總納額は 107,305 圓で前年より 111,431 圓少く、一人當納稅額の最高は 12,660 圓、最低は 381 圓である。

昭和十二年十二月二十日現在の衆議院議員は 5 人で選舉有權者は 135,238 人である、人口千につき選舉有權者は 21.63 人で議員一人に對する有權者は 27,048 人である。

昭和十二年十二月二十五日の縣會議員は 30 人にして、その選舉有權者總數は 131,316 人で前年より有權者 2,611 人を増し、議員一人につき有權者は 4,377 人、人口は 20,841 人に該つてゐる。

昭和十二年末現在の市町村會議員は 2,151 人で、その内譯は市會議員 36 人、町會議員 484 人、村會議員 1,631 人となつてゐる、選舉有權者は市會 10,588 人、町會 37,634 人、村會 83,094 人、合計 131,316 人で一市町村當議員は 14.25 人、その有權者は 870 人となつてゐる。

官 公 吏 昭和十二年末に於ける縣職員の總數は 1,277 人、(學校職員並神職を除く) その奉給年額は 884,409 圓で内譯は勅任 1 人、奏任 25 人 (内休職 1 人を含む) 奏任待遇 60 人、判任 186 人、判任待遇 746 人、縣吏員 108 人、雇員 151 人となつてゐる、一人當の奉給年額は 692 圓 60 錢に該る。

昭和十二年末現在の市町村制に依る市町村吏員の總數は 4,452 人で報酬奉給年額 424,505 圓で内名譽職は 3,540 人である、有給吏員一人當の奉給年額は 465 圓 47 錢に該る。